

# I 学校の沿革

- 昭和58. 4. 1 松戸市立馬橋・小金小学校の学区の一部の住宅増に伴う児童数の増加により松戸市立幸谷小学校として開校する。  
初代校長 末次一男 職員数 県職17名 市職6名 計23名
4. 5 開校式・始業式 2～5学年児童数360名
4. 6 第1回入学式 学級数12 1学年児童数90名 計450名
- 昭和59. 4. 1 千葉県教育委員会より体育研究指定校の委嘱を受ける。  
5. 1 学級数16 児童数536名 職員数 県職21名 市職6名 計27名
- 10.16 小学校体育大会総合6位
11. 1 創立1周年記念式
- 昭和60. 5. 1 学級数14 職員数 県職19名 市職6名 計25名
- 昭和61. 5. 1 学級数15 児童数545名 職員数 県職20名 市職6名 計26名
10. 8 学校体育公開研究会（千葉県及び松戸市教育委員会研究指定）
- 昭和62. 4. 1 第2代校長 川鍋 博  
5. 1 学級数15 児童数529名 職員数 県職20名 市職6名 計26名
11. 千葉県学校体育優良校として表彰される。
- 昭和63. 5. 1 学級数15 児童数499名 職員数 県職20名 市職6名 計26名
- 平成元. 3. 用水路利用通学専用路完成  
5. 1 学級数16 児童数509名 職員数 県職22名 市職6名 計28名
- 平成2. 4. 1 第3代校長 大塚祐子  
(1990) 5. 1 学級数16 児童数403名 職員数 県職21名 市職6名 計27名
- 平成3. 5. 1 学級数15 児童数485名 職員数 県職21名 市職6名 計27名
- 平成4. 4. 1 第4代校長 大澤紀夫  
5. 1 学級数16 児童数489名 職員数 県職22名 市職6名 計28名
11. 7 創立10周年記念式典
- 平成5. 5. 1 学級数15 児童数481名 職員数 県職21名 市職7名 計28名
- 平成6. 5. 1 学級数16 児童数505名 職員数 県職22名 市職7名 計29名
- 平成7. 4. 1 第5代校長 金田重之  
5. 1 学級数16 児童数493名 職員数 県職22名 市職7名 計29名
- 平成8. 4. 1 千葉県及び松戸市教育委員会より国際理解教育研究指定校の委嘱を受ける。  
5. 1 学級数15 児童数483名 職員数 県職21名 市職7名 計28名
- 10.15 小学校体育大会男子優勝、男女総合優勝
- 平成9. 5. 1 学級数14 児童数483名 職員数 県職20名 市職6名 計26名
- 10.14 小学校体育大会総合5位
- 10.23 国際理解教育公開研究会（千葉県及び松戸市教育委員会研究指定）
- 平成10. 4. 1 第6代校長 倉持純一  
4. 1 松戸市教育委員会より国際理解教育研究指定校の委嘱を受ける。  
5. 1 学級数16 児童数493名 職員数 県職24名 市職7名 計31名
- 平成11. 5. 1 学級数16 児童数493名 職員数 県職24名 市職6名 計30名
- 11.12 国際理解教育公開研究会（松戸市教育委員会研究指定）
- 平成12. 4. 1 第7代校長 鈴木正紘  
(2000) 5. 1 学級数17 児童数516名 職員数 県職24名 市職7名 計31名
6. 7 球技中央大会バスケットボール3位
- 10.12 小学校体育大会女子優勝、男女総合2位
- 平成13. 5. 1 学級数17 児童数534名 職員数 県職24名 市職6名 計30名
- 平成14. 5. 1 学級数17 児童数550名 職員数 県職24名 市職6名 計30名
11. 1 創立20周年記念式典
- 平成15. 3. 4 PTA設立  
4. 1 第8代校長 八木下 覺  
5. 1 学級数18 児童数589名 職員数 県職27名 市職6名 計33名
6. 7 球技中央大会バスケットボール3位
10. 8 小学校体育大会男子2位、男女総合2位
- 平成16. 3.16 新校舎増築工事7教室完成（特別教室3 普通教室4）  
5. 1 学級数19 児童数616名 職員数 県職28名 市職6名 計34名
10. 7 小学校体育大会男子優勝 男女総合4位
12. 幸谷学童クラブ敷地内開設
- 平成17. 4. 1 第9代校長 阿久根 繁  
5. 1 学級数19 児童数623名 職員数 県職26名 市職7名 計33名
6. 9 球技中央大会サッカー2位
- 平成18. 5. 1 学級数20 児童数619名 職員数 県職26名 市職7名 計33名
- 平成19. 4. 1 第10代校長 平 彰夫  
5. 1 学級数20 児童数636名 職員数 県職29名 市職8名 計37名
- 平成20. 5. 1 学級数20 児童数623名 職員数 県職29名 市職8名 計37名
6. 6 球技中央大会サッカー2位
- 平成21. 4. 1 第11代校長 菅野敏昭  
5. 1 学級数21 児童数626名 職員数 県職30名 市職7名 計37名
- 平成22. 5. 1 学級数19 児童数593名 職員数 県職27名 市職7名 計34名
- 平成23. 4. 1 第12代校長 成瀬美重子  
5. 1 学級数20 児童数581名 職員数 県職27名 市職7名 計34名
- 平成24. 5. 1 学級数18 児童数537名 職員数 県職26名 市職7名 計33名
11. 1 創立30周年記念式典
- 平成25. 4. 1 第13代校長 小出 斉  
5. 1 学級数18 児童数507名 職員数 県職26名 市職7名 計33名
- 7.25 小学校水泳大会女子3位
10. 9 小学校体育大会男子優勝、女子2位、男女総合優勝
- 平成26. 4. 1 学級数16 児童数487名 職員数 県職25名 市職7名 計32名
6. 5 球技中央大会バスケットボール3位
10. 8 小学校体育大会男子6位 女子2位 男女総合優勝
- 平成27. 4. 1 第14代校長 古谷 慶一郎  
5. 1 学級数15 児童数463名 職員数 県職25名 市職6名 計31名
10. 7 小学校体育大会男子7位

平成 28.	5.	1	学級数 15	児童数 466名	職員数	県職 25名	市職 7名	計 32名
平成 29.	5.	1	学級数 16	児童数 468名	職員数	県職 27名	市職 10名	計 37名
平成 30.	4.	1	第 15 代校長 石井 理恵子					
	5.	1	学級数 17	児童数 473名	職員数	県職 28名	市職 10名	計 38名
	6.	7	球技中央大会バスケットボール優勝					
平成 31.	4.	1	自閉症・情緒障害特別支援通級新設					
令和元.	5.	1	学級数 16	児童数 480名	職員数	県職 28名	市職 9名	計 37名
令和 2.	4.	1	第 16 代校長 石井 雅代					
			自閉症・情緒障害特別支援学級新設					
	5.	1	学級数 19	児童数 501名	職員数	県職 30名	市職 5名	
			会計年度任用職 8名					計 43名
令和 3.	5.	1	学級数 19	児童数 501名	職員数	県職 27名	市職 6名	
			会計年度任用職 10名					計 43名

## II 学校経営の概要

### 1. 学校教育目標

『一人ひとりが輝き 心豊かに 学びあえる学校』  
～凡事徹底～

- (1) めざす学校像
  - ・美しく明るく楽しい学校
  - ・基礎学力を身につけさせ、自ら学習に励み、創意のみなぎる学校
  - ・地域・保護者と共に歩み、開かれた安心で安全な学校
- (2) めざす子ども像
  - ・思いやりのある子（豊かな心） 明るいあいさつをかわし協力しあう子
  - ・進んで学ぶ子（確かな学力） 進んで学び、よく考え工夫する子
  - ・たくましい子（健やかな体） 心身を鍛え、自分の身を守るたくましい子
- (3) めざす教員像
  - ・子どもと共に学び、働き、遊び、子どもと共に実践する教職員
  - ・基礎学力を定着させ、学び合える授業をめざす教職員
  - ・地域社会や保護者から信頼される教員
  - ・連帯感と責任感の強い教員

### 2. 学校経営の重点

- ①「豊かな心」の育成…道徳教育の工夫と充実 豊かな人間性や社会性の育成 家庭・地域との連携
- ②「確かな学力」の向上…基礎基本の確実な定着 思考力・判断力・表現力、進んで学ぶ意欲の育成  
個に応じた指導の一層の充実 研修の充実
- ③「健やかな体」の育成…心身の健康・体力の向上 食に関する指導・保健指導の一層の充実  
自分の身を守る力の育成
- ④「地域、保護者に開かれた安心で安全な学校づくり」の推進

### 3. 本年度の努力点

- (1) 一人ひとりが輝き、心豊かに学びあえる学年・学級経営
  - ①自分の良さを自覚し、友だちの良さを認め合える学級づくりや、学年・学級活動を推進する。
  - ②一人ひとりが輝く場面を意図的、計画的に設定し自己存在感と自己有用感をはぐくむ。
- (2) 一人ひとりの子どもが輝く授業の創造
  - ①子どもが主体となり成就感、充実感を持つことができる「わかる授業」を重視する。
  - ②学習に臨む姿勢、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、学力の向上を図る。
  - ③子どもの能力、特性に応じた個別指導の充実と家庭学習の習慣化（学年×10分以上）・充実を図る。
- (3) 豊かな人間関係の育成
  - ①人間関係づくりの基盤となる「挨拶」指導の推進と「幸谷っ子宣言」の日常化を図る。
  - ②特別活動、道徳教育等を通して集団の秩序の維持、向上に努め、所属感、連帯感や社会性を育成する。
  - ③兄弟学級の交流活動を通して心豊かな人間関係を育成する。
  - ④縦割り清掃活動を通じて、幸がう年児童の責任感を育成し、縦割り班の人間関係を深める。
- (4) 情操の深化を目指す体験活動の充実
  - ①心と心のふれあい、自然とのふれあいを通しての体験活動を重視し、発達の段階に応じたキャリア教育を推進する。
  - ②地域学習の系統化と発展により、地域への誇りと愛着心を育む。
  - ③地域社会福祉教育の研究実践を通じて、豊かな心とコミュニケーション能力の育成を図る。
- (5) 健康教育の充実
  - ①教育活動全体を通して、健康体力及び安全に関する指導を積極的に行う。
  - ②年間を通して県や市の特級章への取り組みを推進する。
  - ③養護教諭・学校栄養職員と連携し、職に関する指導・保健指導の充実を図る。
- (6) 共通理解に基づくきめ細やかな生徒指導の推進
  - ①集団生活への適応及び基本的生活習慣の育成を図る。（「幸谷っ子の一日のやくそく」の徹底。）
  - ②教育相談活動の充実を図り、児童理解を深める。（教育相談日・教育相談月の推進）
  - ③幸谷小学校いじめ防止基本方針を共通理解し、いじめ対策を推進する。
- (7) 教育環境の整備
  - ①清掃活動と整理整頓を重視した環境づくりを推進する。
  - ②委員会活動の充実と日常化を図る。
- (8) 開かれた学校づくりの推進
  - ①授業参観、懇談会、保護者面談による相互理解を推進する。
  - ②学校外部評価の実施と公表、学校だより、学年だより、ホームページによる積極的な情報発信に努める。
- (9) 教育公務員としての規律保持
  - ①厳正な服務に努める。
  - ②不祥事防止、危機管理意識の高揚に努める。